

平成23年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）実績報告書（研究実績報告書）

1. 機関番号 3 2 6 9 2 2. 研究機関名 東京工科大学
3. 研究種目名 基盤研究(C) 4. 研究期間 平成22年度～平成24年度
5. 課題番号 2 2 5 3 0 4 3 5
6. 研究課題名 環境ベンチャーにおける効率的なマネジメント手法に関する研究

7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
6 0 4 0 9 7 8 7	オザキ 尾崎 弘之	コンピュータサイエンス学部	教授

8. 研究分担者(所属研究機関名については、研究代表者の所属研究機関と異なる場合のみ記入すること。)

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名

9. 研究実績の概要

下欄には、当該年度に実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、交付申請書に記載した「研究の目的」、「研究実施計画」に照らし、600字～800字で、できるだけ分かりやすく記述すること。また、国立情報学研究所でデータベース化するため、図、グラフ等は記載しないこと。

本研究は、省エネルギー、環境汚染改善、二酸化炭素排出量削減などを目的とした環境技術を基にビジネスを創造する「環境ベンチャー企業」における、効率的なマネジメント手法を分析することを目的とする。本研究で明らかにしようと考えているポイントは、①多様な事業分野で成り立つ環境ビジネス全体像の分析枠組み、②環境技術を事業化する際の諸要素をマネジメントする方法、③日本企業にとっての環境ビジネス構築モデルの三点である。本研究の特色は、「環境政策」と「企業経営」の二分野を横断する学際的な手法をとることと、公益と経済の持続的発展の両立を考察することである。

本年度は、環境政策、技術マネジメントに関連する文献ならびに各種資料（1次および2次資料）を入手、渉猟した。また、これまでの研究を各々の専門領域から多面的にサーベイし、試論的分析枠組みを演繹的に導出することを計画した。その過程で、約50社の国内大企業へのインタビューと国内環境ベンチャーへの参与観察を行い、月2回程度の研究会を開催することによって、事例研究・参与観察を継続実施した。

本年度の研究成果は学会発表等9件であったが、すべて招待講演、うち2件は国際学会での講演であった。特に、平成23年3月の東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所の事故、東京電力管内の計画停電、夏場の電力不足、省エネといった出来事が連続して起き、本研究への関心が各方面から高まったと思われる。この意味では、本研究の社会的意義が高まった年であった。

10. キーワード

- | | | | |
|------------|---------------|-----------|-------------|
| (1) 経営学 | (2) ベンチャービジネス | (3) 環境技術 | (4) イノベーション |
| (5) 環境ビジネス | (6) クリーンエネルギー | (7) 地球温暖化 | (8) 電気自動車 |

11. 現在までの達成度

下欄には、交付申請書に記載した「研究の目的」の達成度について、以下の区分により自己点検による評価を行い、その理由を簡潔に記述すること。また、国立情報学研究所でデータベース化するため、図、グラフ等は記載しないこと。
 <区分>①当初の計画以上に進展している。 ②おおむね順調に進展している。 ③やや遅れている。 ④遅れている。

(区分) ②おおむね順調に進展している。
(理由) 本年度は文献収集、データベース収集、インタビュー、参与観察を通じた情報のインプットに時間を費やした。最終年度は論文、著書、学会発表のアウトプットに注力する予定で、概ねスケジュールどおりに進んでいる。

12. 今後の研究の推進方策

本研究課題の今後の推進方策について簡潔に記述すること。研究計画の変更あるいは研究を遂行する上での問題点があれば、その対応策なども記述すること。また、国立情報学研究所でデータベース化するため、図、グラフ等は記載しないこと。

<p>今後、重点的な調査を行う企業を10社程度に絞り込み、分析・調査を行う。また、研究目的に含まれる分析フレームワークを確認し、方法の洗練化を行う。同時に、試論的な仮説の導出を行い、海外事例研究で用いるインタビュー項目の特定と調査対象企業の選定を行う。</p> <p>また、本年度に取得したグローバル環境ベンチャーのデータベースを分析し、研究テーマの検証を行う。</p>

13. 研究発表（平成23年度の研究成果）

※ 「13. 研究発表」欄及び「14. 研究成果による産業財産権の出願・取得状況」欄において記入欄が不足する場合には、適宜記入欄を挿入し、それによりページ数が増加した場合は、左端を糊付けすること。

【雑誌論文】 計（ 0 ）件 うち査読付論文 計（0）件

著者名	論文標題			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
掲載論文の DOI（デジタルオブジェクト識別子）				

【学会発表】 計（ 9 ）件 うち招待講演 計（9）件

発表者名	発表標題		
尾崎 弘之	中国電気自動車(EV)市場と レアアースの動向		
学会等名	発表年月日	発表場所	
第七回野上浩太郎政策フォーラム（招待講演）	2011年8月9日	KKRホテル（東京都千代田区	

発表者名	発表標題		
尾崎 弘之	Panel Discussion: "Asian Energy Business"		
学会等名	発表年月日	発表場所	
HARVARD PROJECT FOR ASIAN AND INTERNATIONAL RELATIONS 2011（招待講演）	2011年8月20日	Yonsei University in Seoul, Korea	

発表者名	発表標題		
尾崎 弘之	Fukushima and Green Energy Business in Japan		
学会等名	発表年月日	発表場所	
HARVARD PROJECT FOR ASIAN AND INTERNATIONAL RELATIONS 2011（招待講演）	2011年8月21日	Yonsei University in Seoul, Korea	

発表者名	発表標 題		
尾崎 弘之	グローバルクリーンテックへの投資動向		
学会等名	発表年月日	発表場 所	
NPO環境ベテランズフォーラム (招待講演)	2011年9月29日	NPO法人 新現役ネット会議室 (東京都港区)	

発表者名	発表標 題		
尾崎 弘之	環境ビジネスと中国		
学会等名	発表年月日	発表場 所	
公益社団法人経済同友会第二水曜グループ例会 (招待講演)	2011年10月12日	日本工業倶楽部 (東京都千代田区)	

発表者名	発表標 題		
尾崎 弘之	環境ビジネスの裏側		
学会等名	発表年月日	発表場 所	
グロービス商工研究会 (招待講演)	2011年10月14日	杉並区阿佐ヶ谷地域センター (東京都杉並区)	

発表者名	発表標 題		
尾崎 弘之	「次世代型環境ビジネスの将来展望」 ～中国市場を題材に～		
学会等名	発表年月日	発表場 所	
文部科学省 平成 21 年度「大学教育充実のための戦略的 大学連携支援プログラム」選定事業「理工医薬融合型 ライフサイエンス高度専門教育システムの創成(実施大 学:立命館大学・関西医科大学)」 (招待講演)	2011年11月19日	大阪商工会議所 (大阪市中央区)	

発表者名	発表標 題		
尾崎 弘之	次世代型環境ビジネスの将来展望		
学会等名	発表年月日	発表場 所	
東京経済政策研究会 (招待講演)	2011年11月20日	東京電機大学 (東京都中央区)	

発表者名	発表標 題		
尾崎 弘之	“Eastern Japan Earthquake and Entrepreneurship”		
学会等名	発表年月日	発表場 所	
Biz Asia Japan Project (招待講演)	2011年12月5日	国立オリンピック記念青少年総合センター (東京都渋谷区)	

【図 書】 計 (0) 件

著 者 名	出 版 社		
	書 名	発 行 年	総ページ数
		■ ■ ■	

14. 研究成果による産業財産権の出願・取得状況

【出 願】 計 (0) 件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	出願年月日	国内・外国の別

〔取得〕 計（ 0 ）件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	取得年月日	国内・外国の別
				出願年月日	

15. 備考

※ 研究者又は所属研究機関が作成した研究内容又は研究成果に関するwebページがある場合は、URLを記載すること。

なし
